

2021 年度 防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」開催報告



1 日時

2021 年 11 月 14 日（日）午後 1 時から午後 5 時まで

2 場所・内容・時間

あいち健康の森公園 あいち健康プラザ プラザホール
（知多郡東浦町森岡源吾山 1-1）

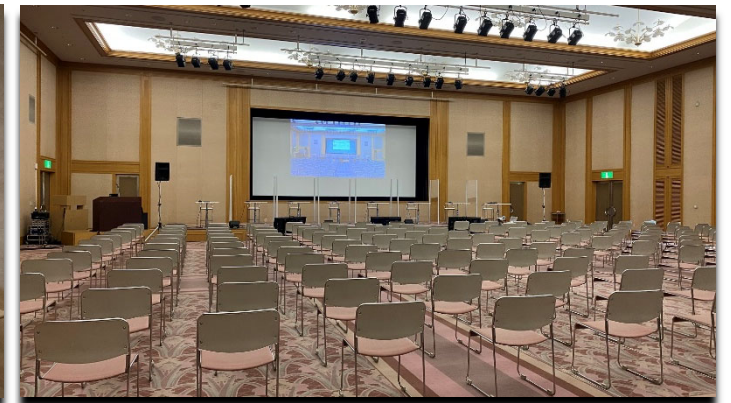
時間	区分	内容
午後1時	開会	挨拶、オリエンテーション
午後1時10分～午後2時	第一部	東日本大震災 語り部の話
午後2時～2時45分	第二部	パネルディスカッション
午後2時55分～午後5時	第三部	グループワーク、会場ディスカッション
午後5時	閉会	挨拶



7 主な内容

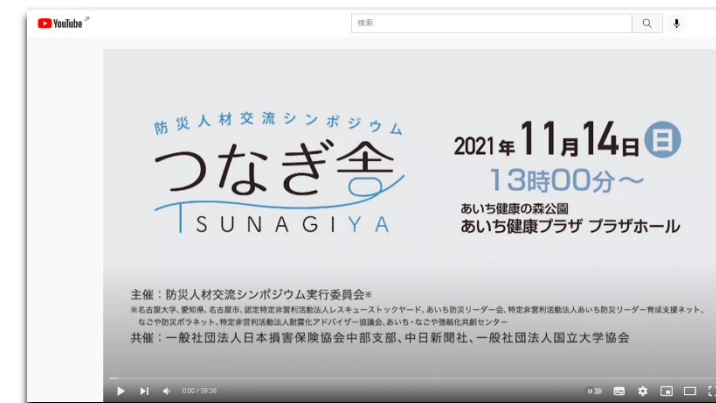
○ コロナ対策

検温・消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンス・換気等のコロナ対策を行いながらの開催となりました。



○ オンライン配信

シンポジウムの様子は、Zoom 及び YouTube でも同時配信を行いました。



3 主催

防災人材交流シンポジウム実行委員会

名古屋大学、愛知県、名古屋市、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード、
あいち防災リーダー会、特定非営利活動法人あいち防災リーダー育成支援ネット、
なごや防災ボラネット、特定非営利活動法人耐震化アドバイザー協議会、
あいち・なごや強靱化共創センター

4 共催

一般社団法人日本損害保険協会中部支部、中日新聞社、一般社団法人国立大学協会

5 開催方法

会場聴講、Zoom 参加、YouTube 視聴

6 参加者数

会場聴講者 120 名、Zoom 参加者 50 名、YouTube 視聴者 50 名 計 220 名

○ 開会

主催者を代表して、愛知県防災安全局防災部の竹内正光 防災部長の挨拶をいただきました。



○ 進行

認定NPO法人レスキューストックヤードの栗田暢之 代表理事が進行を務めました。



○ 【第一部】東日本大震災 語り部の話

3.11メモリアルネットワークの武田真一 代表には、昨年に続きご講演いただきました。今年は、「後悔」についてお話をいただき、東海地方の私たちに、備えの意識や思い込みを問い直す機会にさせていただきたいとご説明いただきました。

わたしたちには「後悔」があります

◎ 伝承活動の原点
「同じ後悔をしてほしくない、犠牲と混乱を繰り返さないで」

3.11メモリアルネットワークの語り部たちの訴えに触れ、皆さん自身の備えの意識や思い込みを問い直す機会にしていただければ、と思います

3.11メモリアルネットワークの永沼悠斗 理事（写真左）は、人生最大の「後悔」として震災2日前の前震（M7.3）の後に、災害について家族で話し合わなかったこととお話いただき、志野ほのかさん（右写真）は、昨年に続いてのご講演で、今年は「自分の命は自分で守る」ことを家族間で必ず確かめ合ってほしいと、辛いご経験談のお話をいただきました。

人生最大の後悔

- ・東日本大震災2日前3月9日の地震（考えるきっかけ）
- ・家族で災害について話し合いの場を設けなかったこと
- ・生活圏に関する危険性への対策を考え行動していなかったこと
- ・家族、親戚、友人のいのちを守ることができなかったこと

祖父はなぜ逃げなかったのか

○ 【第二部】課題提起 1

あいち・なごや強靱化共創センター長の名古屋大学 福和伸夫 教授から、南海トラフ地震臨時情報が発表された際の社会的混乱について説明をいただき、そのための備えについて、「事前対策が勝負」とまとめていただきました。

南海トラフ地震 臨時情報

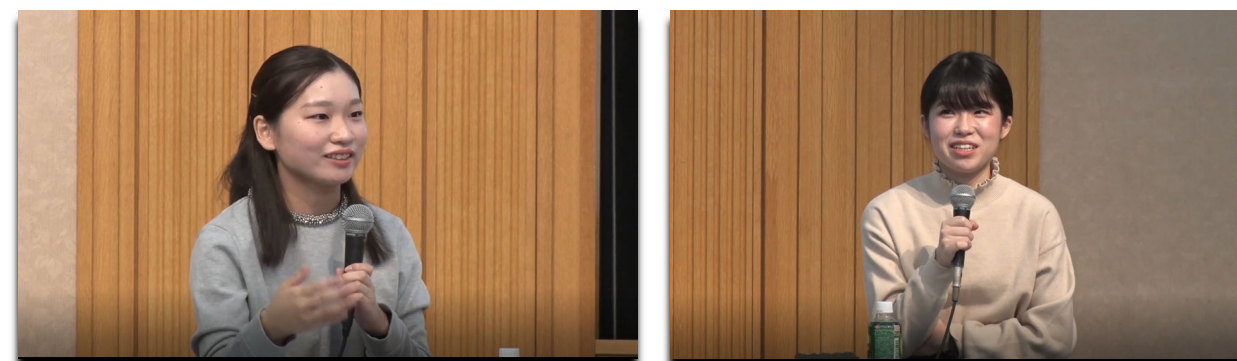
臨時情報で狼狽えないためには事前対策しかない

防災対応の流れ

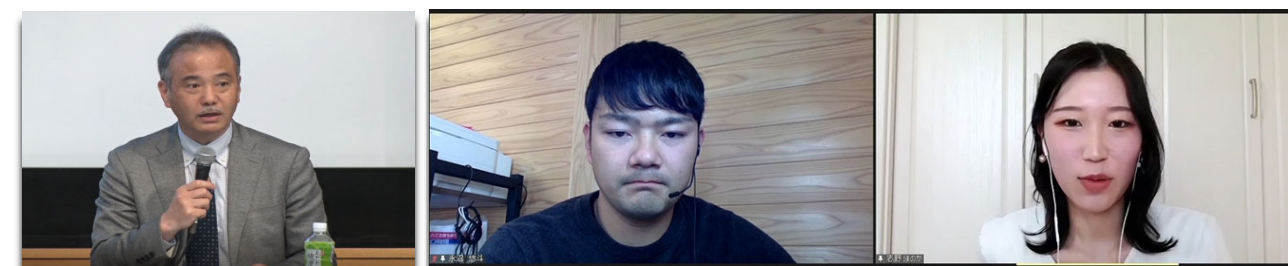
判断力を持つ 命を守る 狼狽えない 社会を維持する 事前対策が勝負

1Week+1Weekは特別な警戒

日本福祉大学4年の後藤凜さん（写真左）は、メディアでは学べないことが学べたため、周りの友人や防災に興味にない人にも（私が）伝えていきたいと力強くコメントをいただきました。名古屋大学3年の福間美帆さん（写真右）は、難しい知識だけ言われると頭に入ってくないが、語り部の話とセットで聞くことで頭に入ってきたため、しっかりと受けとめて、行動しなければいけない気づきを得たというコメントをいただきました。

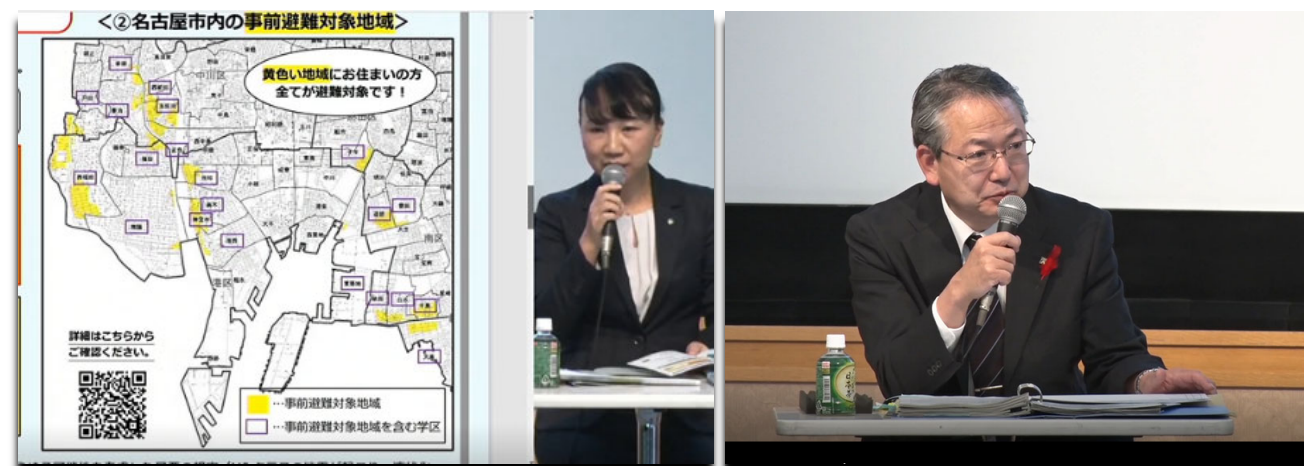


語り部の方々からも、事前対策による成功事例もたくさんあるため、正しい知識を持って、命を守るための行動に、しっかりと活かしてほしいと、重ねてお話をいただきました。



○【第二部】課題提起2

名古屋市防災危機管理局の三品優子 主幹（写真左）から、名古屋市の事前避難対象地域について、市民の取るべき行動について説明をいただき、また、竹内防災部長からは、愛知県全域では、25 市町村に事前避難検討対象地域があることについて説明をいただきました。



災害ボランティアコーディネーターなごやの高崎賢一 代表（写真左）からは、港区の住民へのアンケート結果からも、臨時情報や事前避難対象地域についての周知不足が挙げられました。福和教授、武田代表、竹内防災部長、三品主幹がそれぞれの立場から、広報や内閣府マンガの活用、災害対応に重要な想像力の育みを説明するとともに、誰かが何かをしてくれるの構えでは危険で、しっかりと身構えて備えることが大事。自分の身を守る行動、判断を今日からでも始めてほしいと締めくくりました。



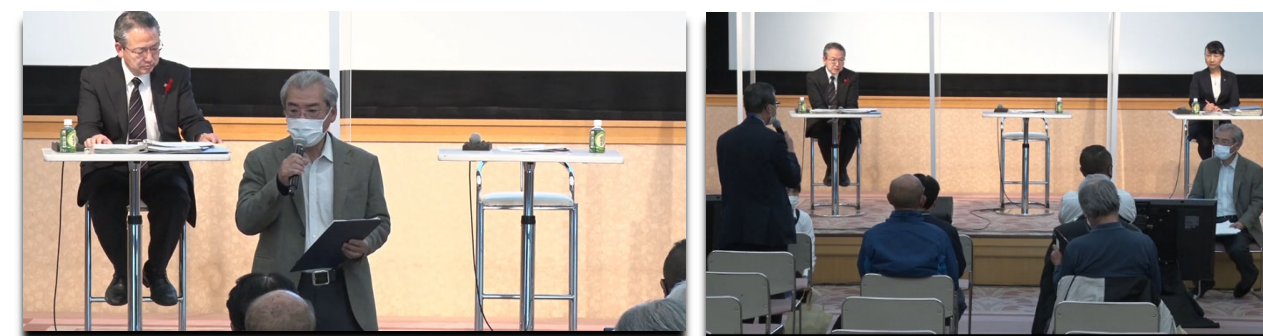
○【第三部】グループワーク

栗田代表理事の進行により、防災・減災活動に従事している方々や地域団体、NPO、ボランティア団体、大学生、社会福祉協議会職員、行政職員等が分科会（10 グループ）を開き、「若者が防災活動に参加できるようにつないでいく」、「災害が起こる前の（命を守るための）事前の備えが進むような学びを得る」、「災害が起こった後の（命を守るための）避難生活の環境改善が促進される」というテーマで話し合い、成果を発表しました。



○【第三部】登壇者とのディスカッション

高崎代表の進行により、会場参加者とのディスカッションを行いました。第二部に引き続き、臨時情報や事前避難対象地域、そして南海トラフ地震についての議論を行いました。国、県、市の体制について議論を深めるとともに、命を守るための行動の必要性を再確認する一方、防災に関心がない人に知ってもらう工夫も必要とのご意見もありました。



巨大地震に備えよう
東浦で14日にシンポジウム
東日本大震災の経験と教訓を南海トラフ地震の備えに生かす防災人材交流シンポジウム

名古屋大や県、名古屋市、NPOレスキーストックヤード(RSY)などが主催する実行委主催。第一部は東日本大震災の語り部の話で、第二部はパネル討論で南海トラフ地震の発生が差し迫った状況などで発表される臨時情報の対応を考える。第二部はグループワークで防災減災活動の担い手と専門家が意見交換する。

東北からは「3・11メモリアルネットワーク」代表で宮城教育大の武田真一特任教授や宮城県石巻市の旧大川小で弟を亡くした永沼悠斗さん、同県東松島市で被災した志野ほのかさんが参加。地元からは名大減災連携研究センターの福和伸夫教授やRSYの栗田暢之代表理事らが登壇する。一部と二部は動画投稿サイト「YouTube」で配信する。防災人材交流シンポジウム事務局 052(747) 6979

ボジウム「つなぎ舎」(中日新聞社)が十四日午後一時から、東浦町のあいち健康の森公園あいち健康プラザで開かれる。

東北と東海地方の防災活動に取り組み団体や大学生ら担い手や専門家が集まり、大規模災害への備えを考え、参加費無料で会場聴講の定員は百人。事前申し込み不要。

名古屋大や県、名古屋市、NPOレスキーストックヤード(RSY)などが主催する実行委主催。第一部は東日本大震災の語り部の話で、第二部はパネル討論で南海トラフ地震の発生が差し迫った状況などで発表される臨時情報の対応を考える。第二部はグループワークで防災減災活動の担い手と専門家が意見交換する。

「あの夜に家族で地震の時どうするか話していたら……」

東日本大震災の被災経験と教訓を南海トラフ地震の備えに生かす防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」(実行委員会主催、中日新聞社など共催)が十四日、東浦町のあいち健康プラザホールで開かれた。南海トラフ地震の発生可能性が高まった際に発表される「臨時情報」への対応などについて議論し、日ごろからの備えの重要性を共有した。

語り部による語り、パネル討論などがあった。宮城県石巻市の旧大川小で弟を亡くした永沼悠斗さん(16)がリモート参加。震災二日前に起きたマグニチュード(M)7.3の地震に触れ「その夜に家族で地震の話をしなかった。次に東浦 3・11被災者と専門家ら討論

地震があった時にどう命を守るのか。その危機意識を持つきっかけがあったのに何もしなかった。それが最大の後悔」と話した。

同県東松島市で被災し、祖父を津波で亡くした志野ほのかさんも「震災二日前の地震をどう伝えたかが命を左右した。自宅で学校から私の帰宅を待っていて被災した祖父と、地震が起きた時にはどうすればよいかわかりと話し合っておくべきだった」と振り返った。

パネル討論では、南海トラフ地震に関する臨時情報を主題に話し合った。名古屋大減災連携研究センターの福和伸夫教授は「臨時情報が出れば、日本はうらたえることになるだろう。事前の防災対策が勝負になる」と訴えた。

伝承活動に取り組み個人・団体でつくる3・11メモリアルネットワークの武田真一代表(宮城教育大特任教授)は「臨時情報が出される前の段階で突発的に起こる大地震に対応した備えをしているかどうかが分岐点。宮城県沖地震に普段から備えていた地域でも震災であれだけ被災した。誰かが何かをしてくれるのを待っているだけではないと呼び掛けた。オンラインも併用した形で開催。会場には約百二十人が参加した。(梅田歳晴)

南海トラフ 後悔しない備えを

○ 閉会

共催者を代表して、一般社団法人日本損害保険協会中部支部の三村雅彦 事務局長より挨拶をいただきました。



○ 配布資料

- ・2021 年度防災・日本再生シンポジウム開催のご挨拶 (共催者:一般社団法人国立大学協会)
- ・3.11 メモリアルネットワークパンフレット (ゲスト登壇者:案内資料)
- ・3.11 メモリアルネットワーク基金ご寄付のお願い (ゲスト登壇者:案内資料)
- ・第二部に関する予習資料
 - マンガで解説 南海トラフ地震 その日がきたら…【内閣府 PDF】
<http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/comic.pdf>
 - 南海トラフ地震臨時情報って何?【名古屋市 PDF】
<https://www.city.nagoya.jp/minato/cmsfiles/contents/0000142/142956/zizen.pdf>

○ 新聞記事 (中日新聞社)

防災人材交流シンポジウム
つなぎ舎(や)

東日本大震災の経験を「つなぎ舎」(レスキーストックヤード代表理事)ほか【3部】地域の災害や南海トラフ地震などの大規模災害に備えることを目的に話し合います。

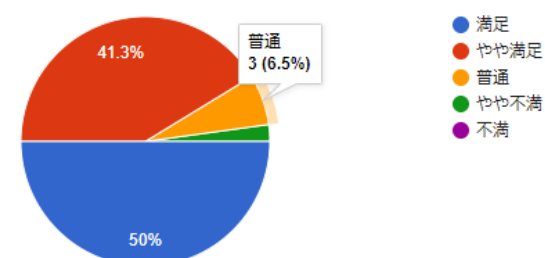
14日(日)後11時5分東浦町のあいち健康プラザホール。先着100人。参加無料。事前申し込み不要。

内容【1部】東日本大震災を経験した語り部の話【2部】若者の防災活動参加、事前避難などをテーマに討論【出演】福和伸夫(名大減災連携研究センター・教授)、武田真一(3・11メモリアルネットワーク代表)、栗田暢之

(レスキーストックヤード代表理事)ほか【3部】地域の災害や東日本大震災から何を学び、学んだことをどのように生かしていくかをグループで意見交換。無料配信 1部と2部を、あいち・なごや強靱(きょうじん)化共創センターのホームページで視聴可。ただし通信料が必要。主催 防災人材交流シンポジウム実行委員会。共催 日本損害保険協会中部支部、国立大学協会。中日新聞社

○ 参加者へのアンケート

- つなぎ舎の満足度について、あてはまるものをお選びください。
- 46 件の回答



以上